

5月のほけんだより

平成29年 第198号

呉市役所
子育て施設課
0823-25-3144



子どもの事故防止



ショッピングカートに注意！

大人の「これくらい大丈夫。」という過信と、思ってもみなかった子どもの行動が結びついて、事故につながります。最近多い事故として、スーパーマーケットなどで使用する、子どもの座席がついているショッピングカートによるものがあります。買い物の時便利で、子どもを座席に座らせて買い物をした経験のある人は多いでしょう。一方、店舗で子どもがショッピングカートから転落したり、乗ったまま転倒したりしてしまう事故が後を絶ちません。

事故の傾向

乳幼児の頭部は柔らかく損傷を受けやすい！
重大な事故につながります！

- ・店舗で起こる事故の4割は、ショッピングカートが関係しています。
- ・ショッピングカートの事故の7割は、1～3歳の子どもでおきています。
- ・ショッピングカートの事故の6割が転落。立ち上がろうとしたり、身を乗り出したりした時に発生しています。
- ・ショッピングカートから転落して負う怪我の8割は、頭に関係しています。（擦り傷・打撲・骨折・頭蓋内損傷など）
- ・その他、四肢の外傷などもあります。

ショッピングカートで起きた事故

- ・ショッピングカートに乗っていて転落し、後頭部を打撲。すぐに泣きだし意識消失もなかった。その後吐き気があり帰宅後も続くので受診。頭部CTにて頭蓋骨内の出血と判明。（1歳8か月女児：重症）
- ・レジで会計の順番待ちをしていた時、本人はカートの下に乗っていて、ショッピングカートごと転倒。右手親指から出血。救急車で搬送。右手親指を骨折、爪がはがれた。入院し手術。（2歳6か月男児：中等症）
- ・ショッピングカートからカゴの方に乗り出し、そのままカゴごと転落。おでこを打ち意識がボーッととなった。頭部X線撮影上明らかな骨折はなかったため、脳しんとうと診断。（2歳7か月男児：軽症）

ショッピングカートは安全に使いましょう！

ショッピングカート利用中は、保護者も買い物という目的があるため、常に子どもに意識を集中することは難しいです。また、ベビーカーに比べて頭の位置が高いため、大きな事故につながりやすいので気をつけましょう。

注意！

- ・ベルトなどが備え付けられているときは必ず着用する。
- ・ショッピングカートで遊ばせたり、座席以外の部分に子どもを乗せたりしない。
- ・注意表示や座席の対象年齢と体重をよく確認する。
- ・取っ手に重い荷物をかけると手前に倒れやすくなるので、かごの中か下に乗せる。



こんな時は急いで救急病院で受診を！

- ☆打撲後泣くこともなく、ぐったりとして意識がはっきりしない。
- ☆けいれんを起こした。
- ☆嘔吐を繰り返す。
- ☆手足の動きに左右差がある。スムーズに歩けない。
- ☆目の動きがおかしい。話ができない。
- ☆打撲した場所以外の頭をひどく痛がる。



落ち着いても2～3日は様子を見る

症状がみられず元気がよい場合は、急いで受診する必要はありません。頭を打った後は、2～3日の間、変わったことがないか観察してください。打撲直後に症状はなくても、遅れて頭の中での出血や、脳の腫れが起こる場合もあります。



消費者庁が推進する

「子どもを事故から守る！プロジェクト」のシンボルキャラクター

カルガモ一家をモチーフに、その親鳥が子ども達を暖かく見守るその姿を通して、子どもへの愛情と、子どもの身の回りにあるちょっとした危険を親しみやすく伝えていきます。

参考文献：1. 独立行政法人国民生活センター「医療機関ネットワークにみる店舗用ショッピングカートでの子どもの事故—転落時の頭部損傷のリスクが高く、危険です！—」
2. 一般社団法人呉市医師会「知っておきたいこどもの病気」

ほけんだよりは、くれ子育てねっとの子育て支援サービスでもご覧になることができます。

URL <http://www.kure-kosodate.com/>